

低温等に対する水稻育苗の留意点

令和2年4月14日
鳥取県産米改良協会

4月13日には発達した低気圧の影響で、大山など山間部では季節外れの降雪がありました。水稻の苗づくりが不安定なのは、苗の体質が環境の変化に敏感に反応しやすいからです。ちょっと油断すると、ムレ苗や高温障害、徒長苗になるのが、箱育苗の特徴です。以下に留意して育苗を行ってください。

1 催芽を揃える

- ① 浸種日はしっかりとる（水温10℃以上で開始、積算水温100℃が目安）
- ② 催芽は、播種の前日～2日前に温水につけてハト胸状態とする。

2 急激な温度変化を避ける管理に心がける

苗の生育段階に応じて、こまめな温度管理と水管理を行うことが大切です。

- ① 出芽期：30℃程度 48時間
- ② 緑化期：20～25℃ 3～5日前後
- ③ 硬化期：外気温にならず。但し、夜温10℃以下の低温に注意する。

なお、育苗日数は稚苗で20～25日、中苗で30～40日必要です。

また、育苗中の水管理としては、床土の量や天候にもよりますが、育苗初期は少なくし、苗の生育量が大きくなって蒸散量が増えてくれば、回数を増やします。

3 苗立枯病対策

- ① 発病後の防除は困難であるため、予防防除を徹底する。
- ② ムレ苗が発生した場合には、タチガレエースM液剤の500～1,000倍液又はタチガレン液剤の500～1,000倍液を箱当たり0.5リットルかん注し、夜間の保温と昼間の遮光に努め、苗の回復を図る。移植可能であれば、早めに本田に移植する。

4 霜害対策（翌朝の降霜が予想される場合）

- ① 育苗ハウスは密閉し、保温に努める。
- ② トンネル育苗している場合はビニールを二重被覆にする。
- ③ 露地育苗の場合は、育苗シート等を再被覆する。
- ④ 田植え後は、深水に湛水する。

5 田植時期

田植え時期の早限は苗の活着の低温限界によって決まります。苗の活着する日平均気温の最低限界は稚苗で12.5℃、中苗で13.5℃～14.5℃程度とされています。田植え時期の決定に際しては、早限以降の時期で、目標とする出穂期および収穫時期や水利慣行等を考慮して決定しましょう。